

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	宍粟市水道事業経営審議会	
開 催 日 時	令和元年12月20日（金）14時00分から15時30分まで	
開 催 場 所	宍粟市役所4階 401会議室	
議 長（会 長） 氏 名	瓦田 沙季（県立大学教授）	
委 員 氏 名	（出席者） 城内 久和 大坪 津義 中岡 宰 佐古井 武男 松本 則夫（公募委員） 岸本 弥生（公募委員）	（欠席者） 春名 恵美（公募委員）
事 務 局 氏 名	太中 豊和、坂井 高誉、宮本 雅博、小池 信仁、秋田 秀光、大谷 広宜	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 水道ビジョンについて、専門的な知識を持った方に参加してもらい、外部からの検討を経て策定していく。 新水道ビジョン策定後は、毎年の経営審議会において、達成度をチェックしていく。	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等		

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
	～資料①に基づき、水道ビジョンの概要について説明～
委員	耐震化について、一般的に建物の耐震化については、鉄骨の筋交を入れるなどの方法が想像できるが、水道施設における耐震化とは具体的にはどのような工事になるのか。
事務局	浄水場などの建物については、通常の建物と同じような手法によります。管路についての耐震化工事については、更新工事の際に、管路の継手を地震でも抜けにくいものに変更して更新することで耐震性能が上がります。
委員	配水池についてはどうか。
事務局	上寺浄水場の配水池であれば、「増しコン」といいまして、コンクリートを厚くする補強方法が考えられます。配水池の構造によって取られる手法は変わります。
委員	管路の布設年度は管理されていると思うが、実際の耐用年数はそれぞれによって異なると考えられる。チェックの方法はあるのか。
事務局	経営戦略では管路は 60 年で更新する計画を立てていますが、実際にはすべての管が同じように更新できるものではありません。波賀町については VP 管というビニール管を使用していますが、これは、現在のビニール管に比べて粘りが少なく、割れやすい材質です。このような箇所については、60 年よりも早く更新する計画としたいと考えています。
委員長	管路の老朽化の調査にカメラの活用は実施しているか。
事務局	実施していません。
委員長	管路の耐用年数 60 年といっても、埋設している地中の環境などにより大きく変わる。カメラ撮影による管路の老朽度の調査は重要と考えられるが、今後の計画はあるか。
事務局	具体的な計画については、まだ策定していません。経験上、管路が割れやすい路線について把握しており、それらを重点的に更新していく予定です。全体的な管路更新計画を考えると将来的にはカメラによる調査も必要となると考えています。
委員	管路の劣化について、末端の管路の方が劣化しやすいのか。
事務局	土質などの環境により劣化具合が変わります。管路埋設時に、保護砂を敷いてから管を設置しますが、地下水などにより保護砂が流失することがあり、そう

	なった場合に、岩石が管に接触することで管が割れる事例が発生します。
委員	管そのものの材質よりも、工事の内容によって耐用年数がかわってくるということか。
事務局	そのとおりです。宍粟市においては、配水本管における漏水事故は頻度が少なく、管路にとっては土質に恵まれているのではないかと考えています。
委員	平成 29 年度の職員数 14 名には再雇用の職員を含むか。
事務局	再任用職員を含む人数です。
委員	再生材の利用について、材料をリサイクルして使用しているということか。
事務局	材料について、リサイクル品を購入し、残土もリサイクルに出すということです。
委員	リサイクルにより収入が発生するのか。
事務局	収入は発生していません。環境に優しい事業の運営の実施という観点からの記述です。
委員	園芸用の土としてのリサイクルも収入は発生していないということか。
事務局	脱水汚泥は産業廃棄物として廃棄しますが、単に埋め立てに使用するのではなく、処理事業者が園芸用の土としてリサイクルしている状況です。
委員	旧水道ビジョンで、平成 30 年度までの財政計画を立てているが、平成 30 年度決算との比較は実施しているか。
事務局	詳細な比較は実施できていません。
委員	新しいビジョンで財政計画を作っても、計画の進捗状況を、起債残高や内部留保資金の残高など、具体的な検証を行っていかなければならないのではないのか。
事務局	現在の水道ビジョンについては検証が不足していると感じます。新水道ビジョンについては、経営戦略と統合することで、3年から5年のサイクルで、見直しが必要です。毎年の経営審議会において、決算との比較検証結果をお示していきたいと考えています。
委員	H30 年度の内部留保資金については、計画と実績でどれくらいの差がでているのか。

事務局	H30 年度末時点で 16 億円程度実績の方が少ないです。
委員	給水収益が大幅に減少している。人口減少が関係しているのかもしれないが、H30 に企業債 9 千万円を計上しているが、それだけ残高が増えるという計画であったのか。
事務局	新規借入額です。
委員	借入額も 9 千万円の計画に対して 1 億 4 2 0 0 万円と大きく増加している。計画と実績の比較から達成度を示してもらえれば、議論しやすい。今後審議会で計画の検証を実施していく中では、そういった資料も提示してもらいたい。
事務局	分かりました。
委員長	<p>料金収入の減少については、人口減少とともに、H26 年度に実施した料金改定が大きく影響している。その料金改定は市内部だけで検証して実施しているが、そのプロセスとして合理的・妥当であったのか。計画の策定や料金改定に当たっては、外部の委員が加わってそれが本当に必要なものかどうか専門的な見地からの検討、市民からの理解が必要となるのではないかと。</p> <p>経営戦略・水道ビジョンに基づいて事業を実施していくのであれば、少なくとも毎年 1 回は経営審議会を開いて、実施した事業についてしっかりと点検しなければならない。また計画策定時に見積もった数値も社会環境の変化に伴い増減する可能性もある。その場合には計画の見直しも必要となってくる。</p> <p>新水道ビジョンについても、市内部だけで完結するのではなく、外部の検証を経て策定してもらいたいという思いがある。</p> <p>ただ、委員の皆さんからは、水道ビジョンを審議することについては荷が重いという意見もある。そのあたりについては、今後の検討が必要。</p>
委員	水道ビジョンとしては 10 年の計画期間となるが、経営戦略部分については 3 年から 5 年での見直しが必要。計画の進捗状況について、毎年比較して検証していく方向で進めてもらえたらと思う。
委員	今回水道ビジョンでの施策の中で、「兵庫県水道災害相互応援に関する協定」について、以前に他市町との連携については、管路口径が小さく困難であるとの説明を受けたと思うが、技術的課題が克服できたのか。
事務局	ここでの応援協定とは管路を接続するのではなく、給水車の派遣による応急給水対応についての協定です。
委員長	前ビジョンの評価について、人件費の削減について「○」との評価であるが、外部委託の活用により職員数が削減できているが、これ以上の職員の削減が望ましいのか。災害対応については一定の職員数が必要となるのではないかと。各自治体では人員不足、特に技術職員の不足が問題となっている中、人材の確保についてどう考えるか。

事務局	水道経験年数の長い職員を再任用職員として活躍してもらうことで、職員数が抑制されている点では、可能な限りの対応ができていると考えています。また、一般部局との間の人事異動のスパンを長くすることで、職員のノウハウの蓄積を図っていきたいと考えています。
委員長	職員の確保が課題となるのであれば、人事担当部局に対しても説明するためにも、しっかりと記述していった方が良いのではないかと。
事務局	わかりました。
委員	人事異動の期間を長くすれば、職員が固定され、専門性は高まるかもしれないが、裾野が広がっていかない弊害も生じる。一般部局との人事交流のローテーションの中で努力すべきなのではないかと。
事務局	水道施設の更新事業を進めていくには、職員数が足りていないと感じています。委員の言われる、「裾野」を広げていく方法が良いと思いますが、市職員の全体数が削減され、増員が困難な現状では、人事異動のスパンを長くすることで対応していきたいと考えています。
委員	宍粟市が広いということも難しい問題である。
事務局	災害対応においては、管路がどれだけ頭に入っているかが重要になります。少しの対応の遅れが断水につながる恐れもあります。弊害もありますが、ノウハウの蓄積が必要であると考えています。
委員	例えば、水道も含む市の施設を横断的に修繕する部署が作れたら良いのかもしれないが、今の宍粟市の状況では難しいだろう。
委員	施設台帳の整備とあるが、これは電子データでの整備か。
事務局	施設一覧としてエクセル管理している資産台帳と、GIS上で管理している管路台帳があります。それらのデータの精度を上げていくことを考えています。
委員長	新しいビジョンの施策としては、新たな事業を展開するのではなく、今までも継続してきた事業をより強化する方向か。
事務局	旧ビジョンにおいて、もっとも大きな事業は簡易水道の統合を掲げていました。また、水源確保事業を進めてきました。今後の10年間は耐震化事業の推進にシフトしていきたいと考えています。
事務局	前回の審議会で、水道ビジョンの施設整備計画について審議することは荷が重いという意見もいただいておりますが、専門的な知識を持った方にも入っていただいて、意見を伺いながらビジョンの策定を進めていきたいと考えております。審議会の中で行うのか、別の委員会として新たにすすめるのか。具体的な

	<p>部分は決まっておりませんが、経営審議会の委員の皆さまにも、参加いただければと思います。また、当初は令和2年3月に完成する予定でしたが、外部の意見も参考にしながら時間をかけて策定したいので、令和2年度にまたがって策定を行っていきたいと考えています。</p>
委員	<p>施設の整備には財政が伴うことで、そのあたりの説明もしっかりと行ってもらいたい。</p>
委員長	<p>～資料②に基づき、民間資金への借り換えの検討について説明～ 政府資金の最も高い利率の借入れが利率4.4%ということだが、全体の中でどれくらいの割合になるのか</p>
事務局	<p>全体での割合は把握していませんが、政府系資金をより利率の高い民間資金へ借り換えることは利子負担の増加につながると考えています。</p>
委員	<p>利率3%以上の残高も結構多い。全体では80億あるが。</p>
委員長	<p>最大利率4.4%で借入している起債については令和5年に償還が完了する。</p>
委員	<p>そもそも、政府資金を繰り上げ償還することは可能なのか。</p>
事務局	<p>県の同意は必要ですが、補償金を支払えば可能です。</p>
委員	<p>利率の高いものについては、5,6年で償還が完了するが、それ以降は利子負担の削減は困難であるということか。新規で借りる分については0.05%くらいで借りられるのか。</p>
事務局	<p>そうです。民間よりは安い金利で借りることができます。難しいことですが、民間利率の方が政府資金利率よりも安くなるのであれば、借り換えを実施して利子負担の低減が可能になると考えます。</p>
委員	<p>費用の中でも割合が大きいのが支払利息になっている。</p>
事務局	<p>現在の経営状況では難しいですが、借入れをせずに自己資金で繰上げ償還を行うことができれば、利子負担の軽減を実現できますので、今後の課題として、情報収集と検討が必要であると考えています。</p>
委員	<p>料金収入が減少する中で、固定費である支払利息の軽減を行っていかないと経営は厳しい。</p>
事務局	<p>～資料③に基づき、広報の原稿の内容について説明～ 令和2年2月号で、水道事業における費用削減についての記事を掲載したいと考えております。あくまでも案の状態ですが、内容について委員の皆さまのご意見を伺えればと思います。</p>

委員	ここに書かれているのは削減が可能であるということか。
事務局	H27年度からH30年度までに取り組んできた削減の実績を掲載したいと考えています。
委員長	修繕費と委託料を除けば費用の削減ができています。施設の長寿命化、耐用年数の長期化を行えば、修繕費が必要となってくる。また、外部委託を進めることで委託料が増加する。それ以外の内部努力できる部分については削減を進めてきたということ。表よりもグラフで表現する方が分かりやすい。
委員	この記事から、何が言いたいのが伝わらない。費用の削減については分かる。料金を値上げしたいのか、水道をもっと使ってもらいたいのか。そこが知りたいところではないか。すでに2回の記事が載り、市民からは何かあるのかなと思われているのでは。可能な限り正直なところを打ち出していった方がよいのでは。
事務局	料金の値上げとなれば、まずは費用の削減ができているのか、これ以上の費用削減は難しいのかが問題となることが予想されますので、まずは費用の抑制について周知したいと考えています。今後の記事となれば、委員の言われるような、もっと踏み込んだ内容になってくると思います。
委員	類似団体平均とあるが、全国平均なのか、兵庫県内平均か。
事務局	全国平均です。
委員長	市民から記事を掲載する目的は何だろうと思われる。できれば料金改定についての記事と一緒に掲載する方がよいのではないか。昨年度、審議会から料金改定について提言書を出している。できるだけ早急に料金改定に対して市内部での検討を進めてもらいたい。
事務局	料金改定を実施する政策決定を行うための準備を進めている状況にあります。改定を行う場合には、周知期間も要しますので、改定の決定はできる限り早く実施したいと考えています。
委員	出前講座の制度なども活用して周知してもらえればと思う。